

次の質問に移ります。

寄附金についてです。

令和6年度決算で、本市への寄附金は4億9,387万6,000円となっています。前年比から10%を超える大幅な落ち込みを示しており、全国的に寄附額を増加させている自治体が多い中で、本市の寄附額が減少している現状は、看過できない課題であります。

さきの決算特別委員会でも、寄附金については貴重な財源として、安定的な獲得が求められ、積極的なPRなどを通じたさらなる上積みが必要であると認識している旨をお伺いしました。

令和6年度決算の寄附金で4億7,180万9,000円を占めるふるさと納税寄附が伸び悩む要因としては、返礼品の魅力や情報発信の不足に加え、寄附者が地域課題の解決に直接貢献できるという実感を得にくい点があるのではないかと考えます。

そこで注目すべきは、ガバメントクラウドファンディングの活用です。これは自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄附金の使い道をより具体化して、そのプロジェクトに共感した人から寄附を募る仕組みで、市内在住の方も寄附を行うことができ、税控除も受けることができる制度です。特定の事業や課題に寄附を募る仕組みで、寄附者が目的を明確に理解できるため、共感を呼びやすい特徴があります。

全国では既に多くの成功事例が見られます。視察した新潟県三条市では、三条市の子供たちの将来・未来のために！誰もが尊重され伸び伸びと学べる環境を整備したい！と題して、市の教育環境整備に関わるプロジェクトを展開し、目標額1,000万円のところ、寄附人数2,669名、6,580万9,000円と、本年1月に658%を達成しています。

事業部局の教育委員会の方に、新規事業など、工夫、努力されたのですかとお聞きすると、日々の取組は変わらずで、市の営業戦略室が取り組んだことと。また、通常予算の上積みなどはないとのことでした。

ほかにも、愛知県長久手市では、学生から選ばれるまちをテーマに寄附を募り、目標額を達成しています。鹿児島県天城町では、子供たちのグローバルプロジェクトを掲げ、全国から寄附を集めています。

また、群馬県大泉町では、新庁舎建設クラウドファンディング～みんなと一緒に作り上げていく新庁舎～、北海道幌加内町では、未来ある学生たちを応援したい！幌加内町学生・若者支援プロジェクト、大阪府池田市では、部活動から地域クラブへ池田の文化・スポーツを未来へつなぐプロジェクト、埼玉県川越市では、第2弾！小江戸川越の駅近に大きな遊具のある広場をつくりたい！等々、ついクリックしてしまいそうな魅力的なキャッチで展開されています。これらの事例は、寄附者が地域課題の解決に直接関わるという実感を持てるテーマ設定が成功の鍵となっていると考えられます。

本市においても、人口減少や子育て支援、防災対策、さらには太鼓祭りや鉾山遺産といった文化資源の活用など、寄附者が共感しやすいテーマを設定することで、寄附額の増加と地域課題解決の両立が期待できるのではないかと考えます。

そこで、寄附金の歳入増加に向けた取組について、政策的な視点から

お伺いします。

本市のふるさと納税寄附額が減少している現状について、市としてどのように分析され、今後どのような展開をお考えでしょうか。また、寄附者の共感を得るために、どのようなテーマ設定や情報発信の工夫を行う御予定かお聞かせください。さらにガバメントクラウドファンディングの導入状況や、その活用についてどのようにお考えか、御所見をお伺いします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。加地企画部長。

○企画部長（加地和弘）（登壇）

寄附金についてお答えいたします。

ガバメントクラウドファンディングの導入状況についてでございます。

ガバメントクラウドファンディングは、新たな財源確保に向け、有効な手法であると認識しており、現在は猫の不妊去勢手術費用の支援を目的として実施いたしておりますが、これまでふるさと祭り東京2019や大阪・関西万博への太鼓台派遣にも活用いたしました。

今後のガバメントクラウドファンディングの活用につきましては、他自治体の活用事例や成果などを参考としつつ、事業目的や効果、実施体制などを総合的に精査し、活用について判断してまいります。

○議長（田窪秀道） 藤田経済部長。

○経済部長（藤田清純）（登壇）

ふるさと納税寄附額の減少に対する分析についてお答えいたします。

全国的な傾向として、制度改正による返礼品規制強化、経済環境の変化、競争激化などが背景にありますが、本市においては、地場産品の魅力発信や新規寄附者獲得に課題があると分析いたしております。

今後の展開につきましては、ふるさと納税に係る中間事業者を公募選定し、地域資源を生かした返礼品の充実、PR戦略の強化、寄附者との継続的な関係づくりに取り組むことで、寄附額の回復を目指したいと考えております。

次に、寄附金充当先のテーマ設定につきましては、引き続き本市が掲げる6つのまちづくりの目標としたいと考えておりますが、新たな中間事業者からのPR戦略等の提案もいただきながら、寄附者から共感を得られるような情報発信に努めたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 合田晋一郎議員。

○11番（合田晋一郎）（登壇）

ありがとうございます。

ふるさと納税に関しましては、先ほど中間事業者との協議を進めていくというお話もありましたが、よろしく願いいたします。

また、ガバメントクラウドファンディングについては新居浜市のみならず、複数の自治体が手を取り合う広域連携の取組もあります。周辺自治体に限らず、横須賀市や大府市との連携も視野に入れることができるのではないかと考えます。

新居浜市に愛着を持ち、事業に共感していただければ、日本全国から、またさらには地球の反対側にお住みの方からも寄附をいただくことが可能です。この仕組みを活用することで、市民や企業の共感を得られる魅力的な施策を展開し、地域の活性化と財源確保を図っていただけることを期待しております。

また、ガバメントクラウドファン

ディングについては、様々な提案が市民からも出るのではないかと考えております。例えば、駅前広場に石村嘉成さんの陶板レリーフが設置されましたが、そういったことの展開で、滝の宮公園とかに石村嘉成さんの動物公園という形での展開、そういったより魅力的な展開が、ガバメントクラウドファンディングではできないのではないかと考えていますので、今後の取組を期待しております。よろしく願いいたします。